

社会福祉法人・学校法人 イエス団



イエス団報

Jesus band news

2021/12/24

25

再刊 25 号

- 研修報告
- 施設紹介
愛隣館
- 特集
新型コロナウイルス感染症という
出来事を通して
- トピックス(竣工しました)
みなべ愛之園こども園
- イエス団の輪っ
叶信治さん
田窪有希子さん 小井手佑圭さん
西井裕美子さん 大森郁美さん
- J.B.フェローズ活動報告
- 表紙写真の解説
- 編集後記

発行：2021年12月24日
発行者：黒田 道郎
編集・発行：
社会福祉法人・学校法人 イエス団
〒651-0076
兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20
TEL：078-221-9565
FAX：078-221-9566
<https://jesusband.jp>
mail to: honbu@jesusband.jp



研修会報告

新任職員研修会

2021年3月22日（月）

または3月23日（火）

於：賀川記念館およびZoom開催

昨年は3月に新任研修が出来ず、11月に実施しました。実際に働き、他の職場の人と出会って話をすることができ、とても充実した研修でした。今年は例年通りの1泊研修とはいきませんでしたが、仲間と出会い分かち合うことを経験してもらいたい、イエス団で働くことについて考える機会となつてほしいとの願いもあり、3月に1日と、仲間と再会し共に各施設での働きを振り返り、それぞれの働きに活かすため、11月に1日の2日間、会場とオンラインのハイブリットという形で研修を行いました。



【開会礼拝 イエスに倣って生きる】

緊張した面持ちで始まった3月の研修。開会礼拝では愛隣デイサービスセンター・空の鳥幼稚園施設長である平田義理事から困っている人たちに寄り添い、その苦しみを解放するために自分にできることを、今することが大切であるというメッセージをいただきました。大人も子どもも、障害がある人もない人も、すべての人が活躍する社会をつくりだす、インクルーシブな社会の実現の為に平田理事の話の中でイメージできたのではないのでしょうか。



【仲間との出会い 私に気付く】

午後は自分の中の考えを、ワークシートを使って整理し、これからそれぞれの場所で心新たに働こうとしている同じ気持ちの仲間と語らいの時をもちました。自分の思いを聞いてもらう心地よさを感じたり、他の人の考え方を聞いて新たな発見をすることなど、仲間との出会いがより自分を深めることへとつながっているようでした。



【イエス団で働くとは】

先輩職員からはオンラインでメッセージをもらいました。自分自身を大切にすること、まわりの人への思いやりの心を気持ちを持ち続けたい、職場の人と協力してがんばっていきたいという思いや、先輩職員の話聞いて不安が取りのぞけたなどの感想が聞けました。

【『これから』の私を描く】

1日の話を思い出し、これからの働きについて『わたしのミッションステートメント』を作成、仲間の前でその決意を発表しました。頑張っていこうという思いがみなさんの表情に出ていたことが印象的でした。

最後に黒田道郎理事長より愛についてのメッセージをいただき、周りの人に寄り添い過ごしていこうと改めて感じました。

報告：企画委員会 研修チーム

神視保育園 園長 植月優子

ブラッシュアップ研修会

2021 年 6 月 12 日（土）
Zoom 開催

今回の研修は、各施設より 13 名の参加がありました。

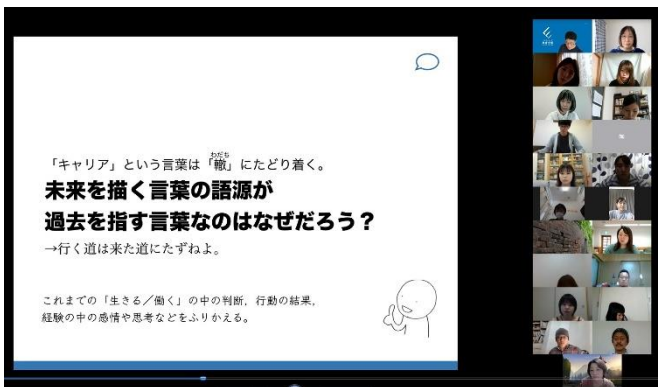
- 【目的】 1) 今の自分を見つめ、これからの課題を探る
2) 現場での体験を出し合い、仲間と共有する
3) 「イエス団で働くこと」の意味を理解し、
深める

通常 2 日間の研修を 1 日で実施しました。

【開会礼拝】

奨励：甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子さん

- 【セッション 1】 仲間と出会う
【セッション 2】 「これまで」の私と仕事
【セッション 3】 「いま」の仕事の中のわたし
【セッション 4】 「これから」のわたしと仕事
【セッション 5】 私のミッションステートメント 2021



いつもは現場から離れ、清々しい山の空気を身体いっぱい感じて、他施設の参加者との交流を交えながらの研修。この研修はぜひとも対面研修を…と願っていたのですが、やはり状況は厳しくオンライン研修となりました。ただ全くなくなる形ではなく研修を実施できたことはよかったと思います。研修は慣れないオンラインということもあり、初めは参加者の方も緊張気味でしたが、時間が進むにつれ、緊張もほぐれて笑顔もみられるようになりました。グループに分かれての話でも、一人ひとりの顔をみて話すことができ、参加者の皆さんの前向きな思いがひしひしと感じられ、とても良い学びの時間になったと思います。1 月のフォローアップでは皆さんと直接お会いし、お話しできることを楽しみにしています。

報告：企画委員会 研修担当チーム
聖浄保育園 園長 峰浩美



全体主任会

2021 年 7 月 2 日（金）
Zoom 開催

毎年 7 月に開催している全体主任会ですが、2020 年度は新型コロナウイルス感染症による感染者が急増して法人全体の研修が中止となり、全体主任会も開催できませんでした。各施設では不安を覚えながら、たくさん迷い、悩んで未知の病気への対応をしてきました。いつもなら会って他の施設の状況を聞いたり、ヒントをもらったりして前に進むこともできましたが、状況が許さず 1 日 1 日気を張り詰めて過ごしてきたことと思います。

2021 年度は、毎日園を支える主任の皆さんが、どんな形でもいいので話せる機会を設け、少しでもホッと、元気になってもらいたい、と決め、法人研修や会議でもおなじみになってきた Zoom を使って開催することになりました。とにかく、お互い顔を合わせながら、リラックスして話ができたら、ということで、事前に語り合いたいテーマを募集しました。想像以上にたくさんのテーマが集まり、「①新型コロナウイルス感染症について、②キリスト教保育や保育について、③職場環境について、④主任としての悩み、⑤会議関係、⑥職員関係について、⑦情報管理について」の 7 つのテーマにまとめました。

当日は、25 名の参加者が Zoom に集い、田村三佳子園長のお祈り、植月優子園長の主旨説明ののち、参加者の自己紹介からスタートしました。その後、Zoom の「ブレイクアウトルーム」という機能を使い、1 グループ 4~5 人に分かれて、テーマ集の中から興味ある話題を取り上げて、3 回グループ替えをしながら自由に話をしました。

いつもは天国屋カフェの美味しいケーキセットをいただきながら懇談しているのですが、今回は「オンライン呑み会」ならぬ「オンライン茶話会」の雰囲気ですっきりして行いたく、手元に飲み物とお菓子を準備していただき、その費用はぜひ施設で出していただけのように施設長にお願いしました。参加者の皆さん、実現できたでしょうか？

事前にいただいたテーマは、今の主任の皆さんの思いや悩みがたくさん書かれてありました。今回その答えは出なかったかもしれませんが、毎年顔を合わせてイエス団の仲間の輪を広げ、大変な状況を乗り越えていきたいと思います。そして、2022 年度は賀川記念館でお会いできますように。

参加者の声（1）

1 年越しの全体主任会。前回と話題の内容もガラッと変わり、コロナの話題が多かったが、行事や日常の情報交換して新しい取り組みを知れ、同じ法人内でもこんなにも違う取り組みがあるのだと、新たな刺激を受けました。

会自体は、固くなり過ぎず自然体な感じで過ごす事ができ、また画面越しではありましたが久しぶりに兵庫ブロックの皆と顔を合わせる事ができ、懐かしさや嬉しさを感じました。私自身、主任 2 人で参加できたのも、良かったのかもしれませんが。のびのびと参加できました。

まだまだコロナが続きますが、画面越しでも集まれるのなら嬉しいなと思いました。企画計画ありがとうございました。次回の開催を心待ちにしています。

(のぞみ保育園 遠藤法子)

参加者の声(2)

主任になって初めての主任会で緊張しましたが、Zoomでの参加ということもあり、接続できた時に嬉しさから思わず手を振ってしまいました。グループワークでは、with コロナの話が多かったですが、マイナスに捉えるのではなく、コロナ禍で色々経験したことをプラスに捉え、行事の見直しや取り入れ方、対策などを考えることが大切なのだと学びました。布染めや歌作りなど、面白いような保育の情報も聞くことが出来て良かったです。

お菓子やお茶を飲みながら参加させてもらったので、リラックスして参加させていただきました。Zoomではグループ内で順番に話しをしましたが、一人ずつしか話せないのを話を進めるのが難しく感じたのと、お話できなかった方もいたので他の方ともお話したかったです。実際にお顔を見ながら話したら空気感も伝わって話が弾むだろうと感じたので、また直接お会いして研修ができる日が来るのを楽しみにしています。ありがとうございました。

(のぞみ保育園 衛藤静香)

報告：企画委員会 研修担当チーム
イエス団本部事務局主任 好崎志保

リーダーシップ養成研修会ステップⅠ

2021年9月9日(木)・10日(金)

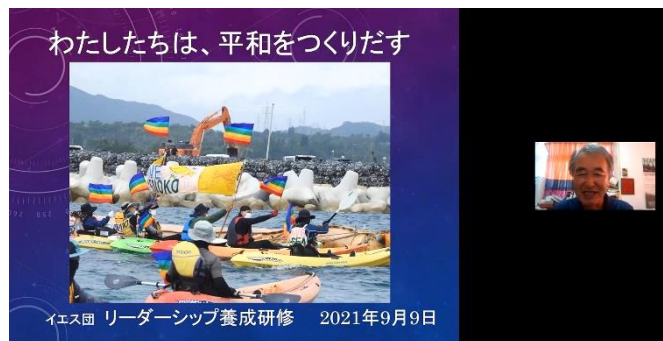
於：Zoom 開催

「ミッションステートメント 2009」の実現に向けて必要なリーダーシップの能力を高める、というねらいを基に一昨年までは大阪生野をフィールドにして、地域にある保育園、高齢者施設、障がい者施設に分かれて現場体験を行い、在日の方々が多く住まわれている生野地域の“言葉、匂い、生活、食、文化”等、直接体で感じ取ることが出来た研修を行ってきました。新型コロナウイルスの影響が日本、世界全体を覆いつくすようになり、昨年は開催を中止、今年は9月にオンライン研修、12月のフォローアップセッションは日本のコロナ感染者の減少により賀川記念館での対面研修が可能となりました。



オンライン研修の良さの一つに、普段なかなかお会いしてお話を聞かせていただけない方でも、画面上で話を聞き質問することが出来ることでしょう。

今回は「ミッションステートメント 2009」より、「いのち」について平田義さん(イエス団理事、愛隣サービスセンター・空の鳥幼稚園 施設長)、「隣り人」について藤井航さん(賀川記念館隣保事業担当職員)、「違い」について呉光現さん(イエス団理事、聖公会生野センター総主事)、「自然」について西村仁志さん(広島修道大学人間環境学部教授)、「平和」について金井創さん(日本キリスト教団佐敷教会牧師、辺野古新基地建設抗議船「不屈」船長)をオンライン上でお招きしてお話をお伺いしました。



「平和」をテーマにして話された金井創先生の話の中で、「今生きているのは平和な世界→平和を守る→そのためには戦争もする。平和を守るための戦争」このような考え方では人を守ることが出来ない、子どもや高齢者、障がいを持つ者、マイノリティの方々の生活やいのちを守るには、「今生きている社会は平和ではない→平和を創る→平和的な手段でなければ平和は創れない」そして「平和をつくりだすとは、あらゆる暴力のない状態を非暴力で実現していくこと」と締めくくっておられました。

参加者それぞれの感性で5つのテーマの話を聞きましたが、私たちは今までどのような方々と出会い、どのような関係を築いてきたのでしょうか。そこには生きづらさを抱えながら、日々耐え忍んで生きている方々もおられることでしょう。助けてというサインを出したくても出せないでいる方もおられるかもしれません。私たちはどのようにして人の痛み、人の辛さ、悲しみに気付くことが出来るのでしょうか。私たちイエス団の一員として「ミッションステートメント 2009」を掲げる中で、“イエスに倣って生きる”ことを大前提に置きながら、様々な視点を持ち、様々な角度のアンテナを張り巡らせ、知ること、気づくこと、そしてところに寄り添うこと、私たちはこれからも学び続けていかなければなりません。

報告：企画委員会 研修担当チーム
ぶどうの木保育園 園長 木村耕



【12月のフォローアップセッションでは、対面研修ができました。】

新任職員フォローアップ研修

2021 年 11 月 6 日(土)

または 11 月 20 日(土)

於：賀川記念館および Zoom 開催

【私の歩みを振り返る】

11 月にはみなさんと再会ができました。『わたしの MS2021』についての取り組みから自分を見つめなおしました。日々過ごすことに必死で、当初考えていた自分の気持ちを忘れていたことに気付いたり、できたことや悩みなどを仲間と共有し、アドバイスをもらうことで励みになったこともあったようです。

【改めて「イエス団で働く」とは？】



キリスト教社会福祉の実践の話聞いて考えました。イエス団で働くことをあまり感じていなかったこともあったようですが、小さくされている人は出会った人の中にいることに気づき、前例がないから、しないのではなく、みんなで作れる知恵を出し、変えていくこと、みんなで作っていくことをそれぞれの場でしていきたいと思いました。そして、誰かに寄り添うために自分を大切にすること、が心に残ったようです。



みなさまが小さくされている人と共に過ごす中で自分にできることを見つけて仕事に励むことができるようにお祈りしています。また、お会いしましょう。

報告：企画委員会 研修チーム
神視保育園 園長 植月優子

2021 年度の研修を振り返って

2021 年度の研修を始めるにあたり、企画委員会研修チームで確認したことは「たとえどのような形であってもイエス団の研修体系に則って必要な研修は行う」ということでした。

その上で、感染状況を見ながら直前変更も念頭におき、研修を組み立てました。

ほとんどの研修はオンラインでの開催となりましたが、一部感染症対策をしっかりと講じ工夫しながら対面研修も行いました。オンラインでは、慣れないパソコン操作をしながら自分の話をするものの難しさを感じましたが、事前の Zoom 接続テストのおかげで研修前に参加者が顔を合わせることもでき、何より遠隔地にいらっしゃる超豪華ゲストのお話を伺えたというオンラインならではの大きなメリットがありました。

反対に、できればよかったなとスタッフ誰もが思い、今後の課題にしたいと感じたことは、『悩みの共有』です。ブレイクアウトルームではたまた『ここだけの話』もしましたが、対面で場を共有しながらの雑談にはかきません。

イエス団の研修では、これまでの自分を振り返り、自分にできることは何なのかをそれぞれの立場で考えます。どうすればよかったのか、それでよかったのかなどを誰かに聴いてもらうことで、また新たな考えが導き出され前に進むことができます。そして、同じ気持ちを持つ仲間がここにいると実感し、明日からの仕事に力を与えられるような何かがあります。

そのためには日常を離れて、山の上などでゆっくりと自分と向き合う時間をとることは大切ですが、残念ながら今年度もかきませんでした。

新しい形での研修を行いながらもまた従来の研修の形に戻していきたいと考えています。

宿泊し、仲間と語り合うあの時間をどうすれば実現していくことができるのか。そして、キリスト教社会福祉の実践、出会わせていただいた利用者さんに寄り添うためにも支援をする一人ひとりが『わたしも大切にされている』と実感していただけるような研修を、どのように提供できるのか、研修チームとして更に考え、皆さまを応援していきたいと思いました。

オンラインではさすがに照れくさくて言えませんが、この場をお借りして「皆さまのことが大事。大好きですよ。」と言わせていただきます。どうぞ、研修でお目にかかるまでお元気で過ごしてください。

企画委員会研修チームチーフ
甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子

施設紹介

愛隣館

データ

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151

TEL : 075 - 621-3849 FAX : 075-621-1579



インクルーシブな社会の実現を！

～新愛隣館完成しました～

1977 年から入居が始まった向島ニュータウンの真ん中に、京都市からの委託を受け、翌年 1978 年に 90 名定員の保育所＝野の百合保育園と 30 名定員の知的障がい児通園施設＝空の鳥幼児園が開設され、難波俊子さんが園長として就任しました。その 1 年後に空の鳥幼児園の 2 階部分に、地域福祉を展開していくために、故木村量好先生（桃陵乳児保育園前園長、第 5 代理事長）の肝いりで愛隣館研修センターが増築され、日本基督教団世光教会の団地伝道の拠点として、教会学校や聖書研究会などの活動や、地域の子ども文庫活動（ふうせん文庫：当時向島ニュータウンは子どもが多く、1 回に 200 人、300 人はあたりまえという状況。）などを行ってきました。



旧愛隣館を地域の方がスケッチしてくれた絵画

その後、地域で暮らす自立障がい者の柏木正行さんとの出会いから、障がい者のデイサービス事業を 1993 年に開設。

2 年後に 3 階を増築し、障がいのある方々の地域生活を支える活動を行ってきました。（向島障がい者地域生活支援センター『遊隣』）これらの同一敷地内で行われてきた活動を総称して「愛隣館」と呼んでいます。

Jbn25-5



柏木正行さんとの出会い

その愛隣館が施設の老朽化からくる度重なる工事が必要となってきたことや、施設を利用される方が増え、アメニティが低下してきていたことから、建て替えを決断しました。

野の百合保育園、空の鳥幼児園、愛隣デイサービスの職員が集まり、建て替えのための会議を続け、「新愛隣館」は、インクルーシブな社会を実現していくというコンセプトの下で建築していくことが確認されたのです。

設計事務所の方との会議を重ねる中で、「新愛隣館」の設計図面がほぼ完成したのですが、その内容が、建て替え前の焼き直しのような建物で、以前の建物と大きく変わらないものになっていたことから、「おもしろい！」「これでいいんか！」と気づき、今一度、私たちが掲げた建築のコンセプトである「インクルーシブな社会実現」のための建物にするために、設計図面をすべて白紙に戻しました。

「インクルーシブな社会の実現」を表現できる建物にするために、地域の人たちとの交わりが大切にされる環境をつくりだすことと、各事業の利用者が愛隣館に足を踏み入れれば、自然とそれぞれの姿を見ることができるようになることが必要とのことから、回廊型の施設に設計を変更しました。



みんなで力をあわせて！

その結果、保育園の子どもたちとデイサービスの利用者、送り迎えをされる保護者の方と、障がいのある子どもたちや大人の方々、地域の方々と各事業所の利用される方々との出会いの場がプロデュースされる空間となっています。地域の方々をはじめ、本当にたくさんの方々からのご支援を受けることができ、新しい器が与えられました。本当に感謝です。これからも「インクルーシブな社会の実現」のために職員一同、何をなすべきかを模索、検討しながら進んでいきます。ここ、向島の愛隣館から何が生まれてくるのかをご期待ください。

施設長 平田義

新施設のフロアマップ

特

別浴室3つと一般浴室1つ短期入所(3名)の部屋を配置。浴室は更衣室を分ける事でこれまで以上に高まっているニーズに応えます。

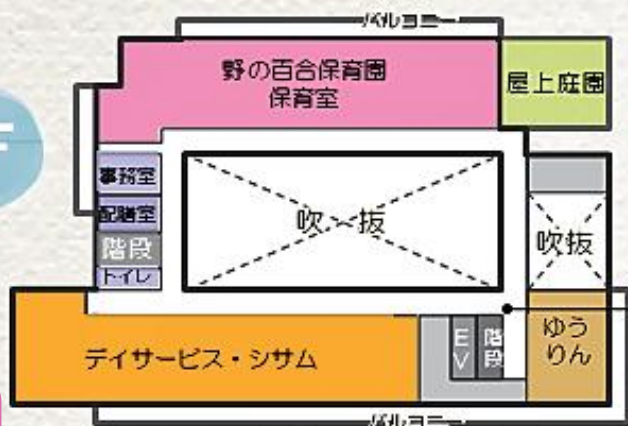


3F

各

部屋を回廊型に配置することで、お互いの活動の様子がよく見えます。バルコニーを使って行き来も自由にできます。

2F

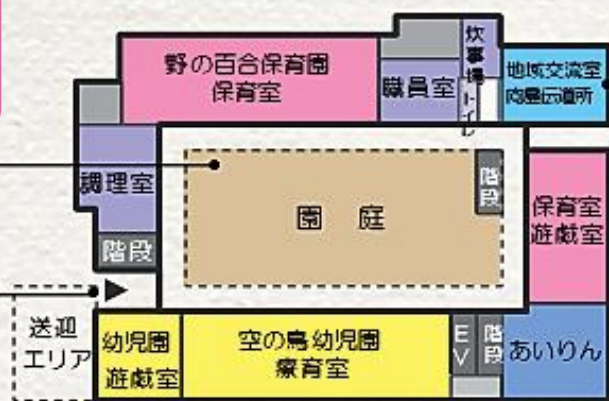


園

庭を真ん中に置いた回廊型の建物では、お互いの顔が自然と見えます。

出

入り口を共通にすることで、利用される方々がそれぞれの多様性を認め合い一人一人を大切に作る環境を作ります



1F

新

たに設ける地域交流スペースでは、利用される方々やスタッフと地域の方々との出会いが生まれます。(一緒にクッキングをしたり映画を観たり)

新愛隣館各事業

- 保育所：野の百合保育園 (90 名定員)
- 児童発達支援センター：空の鳥幼児園 (30 名定員)
- 生活介護事業：愛隣デイサービスセンター (20 名定員)
- 生活介護事業：重症心身障がい者通所「シサム」(10 名定員)
- 居宅介護事業：障がい児者ホームヘルプ事業「ゆうりん」
- 相談支援事業：京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」
- 短期入所事業：愛隣ショートステイ (定員 3 名)
- 地域福祉事業：愛隣館研修センター (インクルーシブ実現部署)
- 日本キリスト教団向島伝道所

5月20日

夏の全国高校野球 戦後初の中止決定

5月25日

緊急事態の解除宣言 約1か月半ぶりに全国で解除

※感染者累計 16,618人

7月12日

「大阪モデル」黄色信号点灯 若者と夜の街の対策強化

※通天閣と太陽の塔を黄色点灯警戒呼び掛け

7月22日

感染懸念の中「Go To トラベル」キャンペーン始まる

9月5日

WHO「新型コロナのワクチン 分配開始は来年中頃の見通し」。

11月9日

コロナ禍 行き場失う外国人技能実習生 国に実態調査を要請

11月14日

障害者の解雇 40%増加 企業の業績悪化など理由

11月24日

大阪府 コロナ重症者最多に 27日から飲食店の営業時間短縮要請

12月2日

日本医師会長「感染者がこれ以上急増すれば医療提供不可能に」

12月3日

「非常事態」の大阪「太陽の塔」など赤く点灯

12月15日

GoTo トラベル全国一時停止へ 政府

12月26日

変異ウイルス拡大を受け全世界からの外国人の新規入国 28日から1月末まで停止 政府

1月5日

コロナ禍の年末年始 “仕事失生活苦”で支援求める人相次ぐ

2021年1月7日

緊急事態宣言 1都3県で2月7日まで

※要請内容は・飲食店への時短営業・20時以降の外出自粛・テレワーク7割に・イベント収容半数が5千人まで・一斉休校は求めないとした。

1月8日

大阪の新規感染者 654人でピーク。5日連続で500人を超える。

1月27日

世界の感染者が1億人を超える
※世界全体で感染者は、1億21万6403人。死者は215万4967人。

2月5日

1都3県の知事 「対策緩めれば医療崩壊の懸念」

ながら。全国的に感染者が増加する中、園の関係者にも感染者。8月末には休園3日。消毒、保護者への連絡・対応、検査実施、西宮市との連絡など、休園の対応、再開への準備を行った。誰も責めることはできない、正解か誤りかではなく事実を受け止め、その時々でベターと考えられる判断・対応をする難しさを感じる日々だった。職員は緊張感や不安感を持ち続けながら各方面へも気を遣い、信頼と連携を大切に、日々取り組んでくれた。感謝し敬意を表したい。

園長 梅村新

ガーデンエル

◎ボランティアをはじめとした地域の方々との交流が制限され、子ども達が色々な大人と触れ合う機会がなくなりました。

◎子どもと保護者が交流できない期間が長く、双方が辛い思いをしていました。

◎親子が直接会って交流する機会が少なく、親子の繋がりが途切れない支援は何かを今まで以上に考える機会になりました。

◎近隣への散歩以外の外出ができず、社会経験を積む機会がほとんどありませんでした。

◎施設内で過ごす毎日をどのように充実させるか、特に『遊び』について施設全体で考え、取り組むようになりました。

◎施設内でできる社会経験は何かを考え、実行する機会になりました。

◎子ども達がマスクのない大人の表情を見ることがほぼないことで、子どもの情緒や発達にどれくらいの影響があるのか、とても気になっています。

◎マスク生活になってから、たくさんの言葉、声色、身振り手振り、スキンシップ、目の表情など、色々な表現を使って、子ども達に意識して伝えるようになりました。

◎感染のリスクを減らすために、食育や、大人と子どもが一緒に食事をするのを止めました。

施設長 六川徳子

みどり野保育園 『時のしるし ～コロナ禍の2年～』

2020年2月頃からコロナ感染が広がりだし、日常生活が一変しました。得体のしれないウイルスに日本社会だけでなく世界中が動揺しました。マスコミが報道するコロナの脅威に恐怖を覚えさせられながらも、医療機関の逼迫ばかりが報道されていましたが、職員は不安に襲われながら、保育園の運営は継続を余儀なくされました。政府は、「マスクの着用」「消毒」「三密（密閉、密集、密接）」を避けるようにと連呼し、ソーシャルディスタンスを取るように喚起いたしました。そのことによって、運営責任を担う多くの園長が今もなお対応に悩みが続いています。当初、コロナがどのような脅威を持つウイルスなのかかわからない時期に、どのように対応すべきか、という答えは誰も持ちえませんでした。ですから、園長の裁量が重要となりました。私は過剰なマスメディアの報道にどのように対応すべきか、保護者や保育者の不安をどのように払拭するかを考えました。そして次のように職員に伝えました。「コロナ感染は生物学的なリスクは当然あるが、私たちの心にも感染し不安を増幅させる。だから、マスメディアなどの報道に振り回されことなく、一定の根拠をもって、早め早めに方針を打ち出し丁寧に説明していく必要がある」と。

その後、尼崎市の感染者数の推移や感染者の年齢層などを記録することにしました。また、重篤化している年齢層などもデータとして記録し、保育園での感染リスクを私なりに考えてみました。そこから見えてきたのは、就学前の子どもへの感染はほとんどなかったこと、また、感染した場合でも重篤化することが稀であることが見えてきました。

そもそも保育園で「三密」にならないようなことはありえず、ちまたの過剰な感染対策が子どもの成長や保護者のストレスを増幅させるものと判断し、基本方針は、保育そのものは従来と何も変わらず。通常通り、実行していくというものでした。

不特定地域の行き来がある保護者への制限はかけましたが、保護者の理解を求め、また、周りからの風評被害にも気をつけながら、結果的には、食事も普通通り、賛美歌も歌い、バスでキャンプにも行き、プールも開きました。保育士も中半あきれ顔でしたが、よく協力してくれています。それが正しい判断であったかどうかはわかりません。しかし「子どもの最善の利益」である「子どもの成長の機会」を守るのが私たちの役割であり、周りがこうしているから、行政がこうに言うからということで、そのことが疎外されることは、極力避けていきたいと今も考えています。イエスが今の時代に生きていたら、どのような言葉を発していたのでしょうか。緊急事態の際、私たちはどのような判断をしていくのか。それは「私たちは何を大切に、保育園を運営しているのか」と日常から祈り、問い続ける姿勢を持ち続けるしかないのではないかと考えています。

園長 中田一夫

神視保育園

花の日礼拝ではいつもお世話になっている人にお花を届けていますが、今年は一番近くにおいて、「だいすき」と見守ってしてくれるおうちの人に「ありがとう」の気持ちをこめて、全園児でお花の



製作をし、玄関を花いっぱいになりました。保護者の方々は迎えに来るなり、「すごい！」と喜んでくださり、子どもと記念撮影する姿も。コロナ禍ですが、気持ちがほっこり温くなる日でした。

コロナ禍でできない事がたくさんある中ではありますが、今ある状況の中で出来ること、楽しめることを職員がみんなで見守りをし、日々すごしています。

園長 植月優子

馬見労務保育園 『コロナ禍の園行事の進め方について』

昨年来より何かと混乱をもたらした新型コロナウイルス感染は、以前に比べ感染者が減少し、緊急事態も順次解除されました。しかしながらまだまだ予断を許さない状況にあり、元の日常に戻る日はいつになるのか不透明な状態がしばらく続いていくように感じられます。このような状態の中、保育園では、検温、消毒、分散、人数制限など、感染防止対策の打ち合わせや確認を連日に渡り行っており、園児や職員の安全に注意を払ってまいりました。園内での通常保育では、これらの対策である程度の予防効果を見込めますが、園内外での行事には、より厳しい対策を必要としなければなりません。密を避け徹底した人数制限をした上で、いかに有意義な趣向性のある行事を行えるか、試行錯誤の日々が続いております。

先日開催された運動会で、子どもたちは、学年やクラス単位で行うことで、よりスムーズに集中も途切れることなく行動する姿がありました。少人数での開催に見られた特徴として注目するポイントであると考えております。今後、どのように感染が収束するか、また再拡散してしまうのか、予測できるものではありませんが、職員一丸となり最善の対応策を選択できるような努めてまいります。

園長 岡本秀美



給食時はアクリルボードを設置して。

野の百合保育園

2019年の年末、愛隣館建替え工事に伴う引越し作業を行った。その頃、新型コロナは海外の出来事と捉え、日本に来ることも想像していなかった。年が明けて2月後半辺りから、お別れ遠足や卒園式をどのように実施していくのか保育者と話し合うことになり、また職員が少しずつマスクを着用し始めた。4月末から初めての緊急事態宣言による休園の対応も保育者が趣向を凝らし動画配信を始め、お休みしている子ども達と「繋がっているよ！」とメッセージを送った。そのような中でも子ども達へは普段と変わらない対応を大切にしつつ、今まで以上の消毒作業。「保育者から子ども達へ新型コロナをうつしてはならぬ」という緊張感はまだ続いている。

2021年9月7日(火)～11日(土)臨時休園も経験(第5波の時期)。なにより罹患した関係者がいらぬ噂などでしんどい思いをしないよう配慮した。このコロナ禍、保護者のご理解・ご協力があり、コロナに関する苦情は全くなかった。普段から保護者へ何気ない声掛けを大事にし、また日本赤十字社が作成した「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう! ～負のスパイラルを断ち切るために～」を保護者へ閲覧したことも良かったかもしれない。新型コロナの「病気」以外の「不安」や「差別」に自分の心、保育者の心を取り込まれないよう空の鳥園長・愛隣デイ所長平田氏と常に相談しながら歩んできた。「密」回避を推奨されるコロナ禍。しかし、福祉は人や地域と心的距離も、身体的距離も「密」にしなければ良い活動にならないことも改めて実感した。新愛隣館のテーマは「インクルーシブ」。誰もが温かく包み込まれるように育める環境を愛隣館内外で実践していきたい。密を適正に注意しながら、子ども達や利用者達・地域と「密」を大切にしていきたい。今後新たな感染症が起きたとしても、この気持ちが途絶えないようにしていきたい。

園長 井桁光

豊島ナオミ荘

◎未知の出来事で人々の内面が表出され、自分や他者を見つめなおす機会となっている。◎望まざる分断が各所で発生する一方で、断ち切れない絆を知ることができた。

2月6日

EU 域内で生産のワクチン 日本への輸出を許可
新型コロナ

2月14日

新型コロナワクチン 国内初の正式承認 米ファイザー製 厚労省

2月17日

新型コロナ ワクチン先行接種始まる 医療従事者 約4万人対象

3月1日

コロナ影響で失業 見込み含め9万人超える 厚労省調査

4月7日

感染不安で「自主休校」7000人余 家族に基礎疾患など
大阪府が「医療非常事態宣言」病床逼迫 医療崩壊のおそれ

4月12日

高齢者へのコロナワクチン接種始まる

4月15日

変異ウイルス「N501Y(デルタ株)」首都圏でも5月初めには8割超か 感染研

4月16日

大阪で重症病床が逼迫 病床増やしても看護師が足りない

4月18日

ワクチン“全対象者に必要な数量 9月中に供給可能の見通し”

4月22日

神戸 入院調整で自宅待機中の死亡相次ぐ 患者急増で調整できず

4月23日

東京 大阪 兵庫 京都に3回目の緊急事態宣言を決定 4月25日～5月11日

※飲食店などに加え、百貨店やショッピングセンターなど大規模な施設に休業を要請。USJ やTDL も休業。

4月28日

変異ウイルス N501Y(デルタ株)“急速な広がり”
大阪 兵庫 京都 8割超 東京 5割超
※感染確認は20代が最多515人 20代以下では887人/2179人中。若年層の感染増加が顕著に

4月29日

大阪で新たに1172人が新型コロナウイルスに感染。大阪府内の感染者は累計8万145人に。1日の死者数としては過去最多となる44人

5月7日

政府 緊急事態宣言 4都府県31日まで延長と愛知 福岡追加を決定

5月18日

昨年度のGDP -4.6% リーマンショックを超える最大の下落

5月21日

モデルナとアストラゼ
ネカのワクチン 正式承認 厚労省

5月23日

沖縄「緊急事態宣言」
開始 飲食店は休業対応
に追われる

5月26日

新型コロナ関連倒産
1500社に 請負業者の
連鎖的な倒産も増加

7月2日

ワクチン「接種したくない」
11% 若い世代多く
全国大規模調査

7月8日

東京に4回目の緊急事態宣言
政府決定 沖縄は延長
8月22日まで

7月23日

緊急事態宣言下の東京
オリンピック 開会式

8月19日

自宅療養中の妊婦 受け入れ先見つからず
早産で新生児死亡

8月25日

厚労省「妊婦のワクチン
接種優先を」自治体に通知

9月1日

※大阪での新規感染者
3,004人で過去最高を
更新。2,000人超は16日間/1ヶ月

9月30日

4回目の緊急事態宣言
をすべて解除
※全国の感染者累計
1,705,224人
関西圏累計 336,200人

10月11日

“コロナ後遺症” 感染の
半年後にも4人に1人で
…倦怠感、嗅覚異常

10月15日

大阪の感染者数 56人に
1日当たりの感染者数
が減少傾向に
※関西圏新規 115人

11月1日

※大阪府新規感染者が
1桁の日が増えはじめ、
関西圏では0人の県も

11月26日

新変異ウイルス「オミ
クロン株」 懸念される変
異株に指定 WHO

11月30日

オミクロン株感染者 日本
初確認

12月4日

※「遺児保護者の4人に
1人が収入なし」
あしなが育英会調べ

12月19日現在

法人所在府県感染者数
累計(死者)
大阪: 203,372人 (3064)
兵庫: 78,771人 (1396)
京都: 36,033人 (292)
奈良: 15,649人 (149)
和歌山: 5,303人 (62)
香川: 4,702人 (38)
徳島: 3,291人 (66)
全国: 1,729,611人
死者: 18,378人
お亡くなりの方々に
対し哀悼の意を表します。

◎結果イコール評価という空気のなかで、物事を決断していくことの難しさを感じている。

◎終末期を迎えた利用者のケアについて、特に家族との対面を実施できたことは大きな成果であると考えている。



【ナオミ荘】デイ入口
感染症対策として
デイサービス専用の
出入り口を設置

施設長 丹生裕一郎

デイサービス
みんなで健康体操



幼保連携型認定こども園 聖浄保育園

2020年コロナ感染症が広がりだし、保育園でも色々なことに対しての対応に悩まされました。先が見えず、何が良くて何が悪いのか？子どもたち、保護者に職員にとって最善は何なのか…。感染を怖がってばかりで「何もしない」のが良いのか…。8月に園関係者の陽性が確認され休園になりました。濃厚接触者として2クラスの園児、職員10名がPCR検査を受け、全員が陰性でしたが、健康観察期間2週間、園を休まなくてはならなくなり、保育をするにも職員が不足、園児の家庭にも休みの協力をしてもらわなくては行けない…。どうすればいいのか答えが出ない状態でしたが、職員が前向きに色々なことに協力してくれ、また、保護者の方にも励ましの言葉をかけていただいたり、入手困難な時期に、消毒液や非接触体温計等を寄付して頂いたり、周りの方に支えられ前に進むことができました。これからまだ「コロナ」とは付き合っていくといけませんが、職員と話し合いの時を持ち、園として、今すべきことや、これからどうすべきかなど考えていこうと思います。

園長 峰浩美

甲子園二葉幼稚園 『コロナに思う』

2020年3月2日より全国の小中高各校と特別支援学校にコロナによる臨時休校が要請されました。保育園と学童保育は原則開所。幼稚園は休園の対象外でしたが、人々の不安は一気に高まりました。ここからわたしと目に見えないウイルスとの闘いが始まりました。要請が出されるというニュースを知ったのは、忘れもしない、スタッフとして参加していた京都東九条でのリーダーシップ養成研修Ⅱの研修中でした。3月は、子どもたちの大切な締めくくりの時期。その大切な時期を、なぜいきなり休校にするのか。それよりやるべきことは他にあるのではないかと憤りすら覚え、中々腑に落ちませんでした。そのため、当初は誰もが納得できる適切な判断はできませんでした。特に卒園する子どもたちには友だちと一緒に大事な時を過ごさせてあげたかったという思いが強くありました。ここからは、自分も含めた「大人の不安」との闘いでした。子どもたちは「大人の不安」を横で見て、ずいぶん不安定になったものです。「子どもを守らなければ」「子どもの最善の利益を」と考え、不思議にわたしの気持ちは強くなりましたが、コロナの前には無力でした。一人では何もできない自分がありました。全ての保護者と職員も守らなければならない。しかし、判断は迫られる。これほど苦しいことはありませんでした。感染が少しおさまり、状況に慣れてくると、希望の光も見えてきました。三密を避けること、マスク着用、検温・消毒・換気の徹底、子どものマスク使用をどうするか、子どもはマスクを使用する方がリスクは高いのだという意見など、わたしたちは一つひとつを考えていきました。子どもたちのために恐れてばかりはいられません。守るべきことを守り、「あれもこれもできないではなく、できる方法を皆で見つけていきたい」と願いました。これまで経験したことのない恐怖に打ち勝つためにはチームでアイディアを出し合い、乗り越えるしかありません。最初は難しかったですが、情報を集め、話し合っって様々な活動を続け、その集大成のひとつが今年の運動会です。どうなるか先の見えない状況の中、様々な状況を想定し、小学校の運動場での実施、園庭で保護者1名だけを招いての実施、雨の場合は園のホールで保護者を招かずに実施など検討を重ねました。しかし常にこれで本当に良いのだろうかという不安もありました。最終的には、どのような状況でも保護者に見ていただける運動会にしたいという思いから、園庭でできるプログラムと方法を考え、園庭に新しい土も入れ整備をしました。園の思いをきちんと保護者に伝え、保護者の皆さまはルールを守ってご協力くださいました。また近隣への配慮もしっかりと行ったので、苦情もありませんでした。結果的に、感動的な運動会を行うことができ、「精一杯工夫してくださり開催していただけただけで感謝しています」など、これまでで一番嬉しいものとなりました。子どもたちの頑張りはもちろん職員の頑張りと、保護者の方々の理解があり、何と幸せな時を過ごしたことでしょう。

第6波は必ず来ると言われています。ここまで皆で頑張ってきたのだから、これからも負けずに十分に備えながら活動をしていきたいと思っています。人は一人では生きることができません。このように共に苦しみや喜びを分かち合う仲間がいるからこそ、乗り越えることができるのだとわたしは実感しています。ここまで、皆で感染を食い止めながら子どもたちのために頑張ってきたことを誇りにも思い、いつも支えてくださり、共に歩んでくださっている皆さまに感謝申し上げます。

園長 田村三佳子

トピックス (竣工しました。)

みなべ愛之園こども園



思えばむかしイエス君、幼子を集め〜と賀川先生が幼子を集めておられたのと同じように、愛之園保育園も賀川先生の「南部に行きたまえ」の一言で升崎外彦がこの地に保育園を開いて 93 年目となりました。

小さな小さな 10 人ほどの園でありましたが、その時代のニーズに合わせながら建物の増改築を繰り返し、定員も 40 名から 60 名へと増え、1987 年、創立 60 年頃に現在の園舎の建て替えを行いました。その借入の手続きの為に東京に行った際は、黒田保郎先生にお世話になったり、当時の理事長であられた今井鎮雄先生に園舎の定礎の文字を。また、愛之園保育園の文字を村山盛嗣先生に書いていただき、多くの方々の寄付やご協力をいただき完成に至りました。

それから 25 年経ったころ、それ以前から持ち上がっていた、建て替えの話が東日本大震災を機に、再び考え始められました。2012 年、みなべ町長の決断により、保育園の移転、建設に向けて動き出すこととなります。しかしながら、用地の確保、ライフライン、水利権、道路整備等克服しなければならない課題が山積みでした。

その間、私たちは、いつ進みだしても良いように、保育の見直しや研修、話し合いを繰り返し行いました。ようやく高台移転の方向性が決まり、公立保育園と統合して「こども園」となり、「防災の拠点」として動き出すこととなります。周辺道路整備工事、池の埋め立て工事にかかっていただきましたが、予定より時間がかかりました。

2018 年には、みなべ町の大変革があり教育委員会に幼児教育室が新設され幼稚園・保育所に関することとなりました。教育長をはじめ、みなべ町議会全員で賀川記念館を訪れ、のぞみ保育園、二宮保育園等を見学され、イエス団のことを理解していただきました。このあたりから、定員も 160 名に決まり、2022 年 4 月開園を目指し、本格的に始動し始めることとなりました。

設計に関しては、A4 用紙にびっしり 50 を超えるお願い事をお渡しし、何度も何度も話し合いながら、詳細に設計してくださいました。そのほとんどを、園舎のすみずみに具体的に形にしてくださいました。例えば ほんの一例ですが、

①保育室に受け入れコーナー、あるいは受け入れ室を設け、お昼寝ベッドや遊具、教材を収納できる押入れが欲しい。



②物入れはできる限り多く飛び出さずフラットに

③乳児室には、もく浴室、おむつ交換台、ベッドコーナー、調乳室、床暖房、保護者が準備しやすいロッカーで保育室と通じているもの(パススルー棚)



④少々の雨にぬれずに遊べる広めのデッキ、耐久性・安全性のある木材で

⑤給食を作ってくれている様子が見られるカウンターを作ってほしい。



⑥インクルーシブな環境として、案内板の色調・トイレの表示・バリアフリー化⑦風通しの良い、換気の良い、夏涼しく冬暖かい建物



2020 年 福祉・医療機構からの貸付内定もされ、6 月 18 日にみなべ町との協定書調印式が執り行われました。災害時には避難施設としての活用に協力すること。公立園の臨時職員を雇用促進すること。みなべ町の補助金や国庫補助、和歌山県への書類作成等を担ってください、整備に関しては全面的な協力すること等を交わしました。8 月 11 日入札が行われ、無事落札。9 月 7 日起工式を実施しました。

1 年超の建設期間中は、コロナ禍の中でしたが、豊かな経

験を持った現場監督をはじめ施工に当たられた皆様が細心の注意を払ってくださり、2021年10月29日に無事安全に素晴らしい技術を持って、園舎を完成していただきました。



園舎の、床、壁、ドア、タイルなど一つひとつの、色や材質を決めるのにも丁寧に相談に乗ってくださり、温かみのある子どもたちの過ごしやすい園舎となりました。

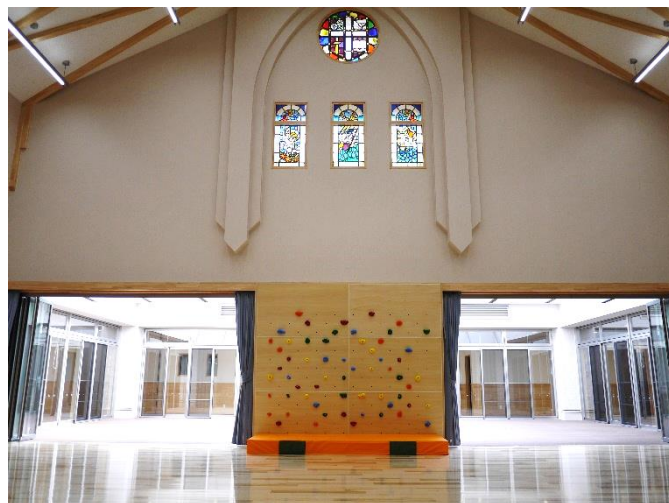


又、散水用に上水とは別に東吉田水道を使わせて頂けます。

こうしてハード面が立派に整いましたので、ソフト面の教育・保育内容の充実の為、今まで積み重ねて来た、イエス団の保育、育児担当制保育・コーナー保育・異年齢児保育等の実践を、新しい職員と共に行えるよう、繰り返し研修を行っている所ですが、今後も共通理解をして同じ方向を見て歩んでいけるために、辛抱強く繰り返していきたいと思います。

みなべ愛之園こども園の定員

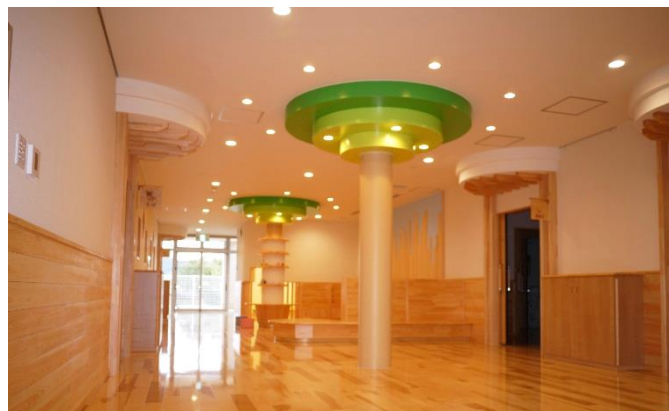
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	18	25	37	37	37	160
(内1号認定：幼稚園部)				(9)	(9)	(9)	(27)
部屋数	1	2	2	2	2	2	11
その他	一時保育育室：1			児童発達支援室：1			



かつて70周年史を作った時に、創設当時のことを知るため松沢資料館より資料を送っていただきました。そのなかに升崎外彦が書いた文章がいくつかありました。

そこには島根伝道の後に書かれたと思うのですが、『私はいつでも夢を描き、幻を見えています。10数年前の出雲時代から不思議にその夢が正夢となり幻は実現していますから、神様は必要なものを与えて下さると信じています。』また、別の文章では『蛇のごとく聡く、鳩の如く温和になって私はまっしぐらにエルサレムに向かって進みましょう。』と、そして『将来としては神さまが如何に導き給うか予知できぬが、過去より現在まで不思議に導き給いし御手に頼り、賀川先生の御指導を受けつつ、贖罪愛運動への実践に懸命の努力と奉仕を続けた。すべては感謝である。』などのことばを見つけることができました。これらのことばの根底には堅い信仰と血のにじむような努力と働きと祈りがあった事と思います。まさに園章にある〈信仰と希望と愛〉だと感じました。

私は、名前の如く迷える子羊で、力も弱く乏しいですが、いつも神様にとらえられて今まで来られたのだと思います。遅々として前進しないことも、何度もありましたが、いつも『天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある・・・神のなされることは皆その時にかなって美しい』という聖書の個所を思いながら「今ではないのだ」「神のなされることは皆その時にかなって美しいはずだ」と過ごしてきました。これからも神さまのお導きを信じ、いつの時代も変わってはならない「愛の精神」を大切に、イエス団憲章やミッションステートメント2009にあるように、歴史を検証し、働きを引き継ぎ、イエスに倣って生きたいと思います。それを実践することにより、地域に根差し愛されることも園となる事を信じて。



愛之園保育園 園長 神谷羊子

イエス団の輪っ

「イエス団の輪っ」と題してリレー形式での投稿です。理事・評議員から一人、一般職員は、各ブロックより一人ずつ寄稿して頂きます。

11 回目は、理事の平田義さんから、評議員の叶信治さん。四国ブロック：小川智子さん（光の子保育園）から田窪有希子さん【神愛館】。大阪ブロック：宮内未来さん（ガーデン天使）から西井裕美子さん（馬見労務保育園）。兵庫・東兵庫ブロック：山田千冬さん（一麦保育園）から小井手佑圭さん（二宮保育園）。京都ブロック：南美穂子さん（ぶどうの木保育園）から大森郁美さん（くずは光の子保育園）。です。



社会福祉法人イエス団評議員
社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会
希望の家カトリック保育園 園長 叶 信治さん

「イエス団に出会って思い起こすこと」

イエス団につながって思い起こすことを、特に若い人に向けて書いてみようと思います。

私が、教派を越えた、エキュメニカル運動に関わることになったのは、1979 年韓国を訪問したことがきっかけでした。日本・韓国・在日のキリスト教に関わる青年がソウルに集まり、日韓在日の歴史と課題に向き合おうとする会でした。今思い起こすと、炭釜の町大牟田、日韓在日の縮図のようなまちで生まれ育った私にとって、刺激的な集まりとなりました。長い時間をかけて、生まれ育ったまちを見つめなおすことにもなりました。また、この集まりは、当時の朴正熙（パクチョンヒ）大統領が暗殺される数か月前に行われ、韓国は緊張感にあふれていました。貧困の中で厳しい生活を余儀なくされるスラム地域の人々や女子労働者の姿、命をかけてでも、民主化を目指していこうとする韓国青年たちの、底抜けに明るい希望に満ちた姿は、参加者の魂を揺さぶりました。

その直後、イエス団で現在重責を果たしておられる、宇野豊さん平田義さん吳光現さんたちと、東九条（京都）や生野（大阪）で出会うことになりました。厳しい歴史と現実を抱える現場の真ただ中でした。そして、2012 年から、この友たちを通じて、イエス団ともつながりました。こうした出会いがなかったら、私はイエス団とも出会っていなかったと思います。

私たちを繋げているのは、言うまでもなく、現場です。特に、厳しい困難を抱える現場です。そこで生きる人々、死んでいった人々です。苦しいこと、悲しいことがあふれています。同時に、喜びと笑顔があふれているところでもあります。しんどい現場だからこそ、私たちを引き付けて止まない。不思議ですね。

イエス団は、保育園など、子どもと関わる人たちが多くですね。私は若い頃「福祉の仕事しよう」とは微塵も思っていませんでした。仕事の展望は何も持たないまま、地域で暮らし始めた頃、出会ったのが子どもでした。子どもは、人との垣根を

次々と乗り越えて来ますね。当時、公園の砂場で遊んでいた（その時初対面の）ある年長の子と遊ぶと思って近づいて行ったら、その子はいきなり私の顔を殴ってきました。強烈な一撃で、垣根を乗り越えて来ました。（笑） その子とは、40 年近くたった今も親しく付き合っています。その後、私は地域の児童館に勤務することになりました。プレイルームのトランポリンと一緒に飛びながら遊んでいる小学生から、「あんた、なにじん??」と聞かれることがしばしばありました。在日朝鮮人の子でした。この大人がどんな人で、どんな距離感をもって付き合うべきか、という難しい課題に、幼いながら、遊びの中で挑んでくる子どもの姿は、今でもリアルに覚えています。大人になる過程で私たちが作ってしまう壁を、子どもたちは次々と越えてきます。私は痛快に感じました。イエスが、子どもたちの行動を制する大人たちに対して、「子どもたちが私のところに来るのを妨げてはならない」と言いました。イエスにこう言わせたのは、子どもの魅力によるものだと思います。

私は、19 年ほど、私の勤める法人内の高齢者施設で働きました。介護保険が導入される激動の時代、迷い悩むことも多くある中、理事会等で出上さんが報告される「真愛」の歩みには、教えられることが多くありました。

高齢者施設で出会った人たちとの忘れられない思い出はいろいろあります。元 芸妓さんだった方は、特養に入られたとき、「一度でいいから、もう一回居酒屋に行きたい。」と言われ、一緒に近所のお店に飲みに行きました。おちょこ一杯の日本酒を、満足そうに飲まれる姿は、忘れられません。この方が、ある時、三味線を弾きたいと言い出されました。これはぜひ実現したいと思いましたが、所持金はほとんどありません。あちこち探したところ、中古の三味線を売っている店があり、1 万円で手に入れることができました。残念ながら、曲を弾くことはできない身体の状態でしたが、調律をする音色は、プロでした。最後まで自分らしく生きようとされる姿に、私たち（職員）は背中を押され続けてきたように思います。

イエス団には、実に多くの出会いの場があふれています。本当に恵まれていると思います。また、スケールメリットがあり、他法人にはできない可能性があります。そして、枠にしばられることなく、時のニーズに向きあっていく組織・魅力的ですね。次の時代を担っていく若い人たちが、臆することなく逞しく進んでいかれることを心より願います。次のバトンは真愛ホーム施設長の出上俊一理事にぜひお願いしたいと思います。



四国ブロック 神愛館 田窪有希子さん

「イエス団と私」

光の子保育園の小川智子さんよりバトンを受け取りました。14 年目保育士の田窪有希子と申します。小学生の頃にインターンシップでお世話になり、そのころから豊島神愛館で働くことを夢見ていました。2007 年に入職し、豊島神愛館で 3 年間、その後ガーデンエルで 5 年間働き、現在は再び神愛館でお世話になり 6 年目になりました。自分が親に愛された

ようにこれから出会う子ども達のことを愛したいという思いを胸に入職しました。豊島神愛館では定員30名の子ども達を、赤ちゃんクラスと1歳半以上の子ども（就学前まで）の過ごす子羊クラスの2ホームに分かれて生活しており、私は子羊クラスに配属されました。担当制をとっており、2歳の男の子の担当となりましたが、失敗の連続でした。子どもとの距離が近くなりすぎて、たくさんの子どもがいる中で甘えに上手に対応出来なかったり、子どもたち一人ひとりと充分に関われなかったりと悩む日々でした。しかし、限られた環境の中でどのような経験が子ども達に必要なか考え、計画し実行することを繰り返すことは私の中でとても良い経験となりました。その時に栄養士や心理士や他の職員にアドバイスをもらい様々な人の力を借り、みんなで子どもたちを育てるという事を、身をもって実感することができました。

担当児を無事に送り出し、小舎制の乳児院で更に子ども達に寄り添い関わってみたいと考えようになり、大阪にあるガーデンエルに異動することに決めました。ガーデンエルは1ホーム5～6人の小舎制でした。愛着関係の研修や、他の乳児院との関わりの中で、実践以外で乳児院の事を学ぶ機会もいただきました。一人ひとりと向き合えるようになったことで大舎制とは違った悩みを感じるようになりました。子どもたちとの距離感も更に近くなり、児童養護施設への措置変更や家庭に復帰する際の子どもへのケアも難しくなったように感じました。その中でミッションステートメントについて学ぶ機会もあり、子どもたちを大切に思い育むということ、職員同士の連携、また、親御さん、子どもたちを隣人として愛し、違いを認め合う事等いつも心に留めながら、今再び神愛館で働かせて頂いています。

神愛館の理念にもあるように「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の言葉に導かれながら一人ひとりの「いのち」に寄り添っていきたいと思います。そして、将来子どもたちが愛されて育った経験を土台に「いのちを大切にする人」になって欲しいと願ひこれからも1日1日を大切に子どもたちと関わっていきたいと思います。

次回は育愛館にバトンをお渡ししたいと思います。よろしくお願いします。



大阪ブロック 馬見労務保育園 にしいゆみこ 西井裕美子さん

「私を支えてくれたもの」

正職を退き、65歳を過ぎて退職を考えながらも健康を与えられて働けることに感謝の日々の中、突然「イエス団の輪っ」のリレー原稿のお話をいただきました。「いえいえ、どうぞ他の方に」と思いましたが、振り返りの機会を与えてくださったことに感謝し、書かせていただくことになりました。

馬見労務保育園との出会いは26年前になります。思いもしなかった場所にふらりと迷い込んだような不思議な感覚でした。「ちょっとお手伝いをお願いしたい」と当時の主任から電話があり、ほんの短期間のつもりでここに来たのは1995年の9月でした。気持ちの定まらないまま翌年の春から学童保育の

担当をさせていただくことになり、小学校1年生から3年生までの子どもたちが学校から帰ってくるのを「おかえり」と迎える日々がスタートしました。私の次男もちょうど同じ年頃だったので、「おかえり」と言って迎える子どもたちに息子の姿が重なりました。

宿題を終えた子どもたちが園庭で元気に遊んでいた情景の真ん中にあったのは、門を入ったところにあった「ペカンの木」でした。ペカンの木は毎日子ども達が登園してくるのを迎え、帰っていく姿を見送ってくれていました。そして園庭で遊ぶ子ども達や園舎を静かに見守ってくれていました。いつからそこにあったのかははっきり知らないのですが、退職した職員が「昔は実がたくさんなっておやつにペカンの実のケーキを焼いて食べた」となつかしうに語ってくれました。今もそのペカンの木は同じ場所にあるのですが、園舎が建て替えられてからは、一部の保育室から間近に見えるものの、木の全体の姿を眺めることが出来なくなってしまったのは私にとっては残念なことです。

キリスト教とは馬見労務保育園に来てから初めての出会いでしたが、小さいころから「神様はいつも見てくださる」と母に教えられていた私には戸惑いは全くありませんでした。ただ神様が導いてくださった不思議な出会いに感謝できるようになるまでには5年ほどの時間が経っていました。「キリスト教保育って何？」と常に悩むことばかりで、困難に出会う度に逃げ出そうとする自分がいました。

私が最初に好きになった子ども讃美歌は「どんなにちいさいこりでも」でした。この讃美歌を歌うと学童保育で出会った寂しい目をした男の子を思い出します。学童保育を終了する3年生の終わり、私の背中にびったりとくっついて離れませんでした。4年生に進級してからは、窓の外から学童保育の部屋をのぞいては帰っていきました。今の時を幸せに生きてほしいと願っています。ある研修の時に牧師先生がこの讃美歌についてお話をしてくださったことがありました。「よいこになれないわたしでも かみさまはあいしてくさる」と歌う時、ありのままの私を神様は受け入れ愛してくさる、良い子になれない私をも愛してくさるという思いが心に溢れてきます。

六甲でのイエス団研修に参加させていただいたことは貴重な経験として心に残っています。イエス団に連なる施設の方々とともに学び、考え、語り合い、繋がっていることを感じる嬉しい出会いでした。同室になった保育士の方と共感しながらお話しできたこと、園長先生に本音をお話しし、温かく傾いて受け止めていただけたことも本当に嬉しいことでした。ともに働く仲間たちがいてくださることをとても心強く感じ、私の心の支えになりました。

次は、聖浄保育園さんにバトンを繋ぎさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。



兵庫・東兵庫ブロック 二宮保育園 こいであか 小井手佑圭さん

「つながる輪 つなげたい輪」

この度、一麦保育園さんからイエス団の輪のバトンを受け取りました二宮保育園の小井手佑圭です。私はイエス団に就職してから、異動を2度経験し、今は二宮保育園で働いていま

す。その中で感じたのは、人とのつながりは私を豊かにするという事です。

1つ目の園では、就職したてで何もわからなかった中で、子どもとの関わり方、保護者の方との関係作り、先輩職員との関係など保育について、保育園で働くということについて様々なことを学びました。子どもの人数も多かったのも、保護者、職員の数も多く、今まで同年代の友人との関わりが多かった私にとっては、新しい人間関係はとても大変だったことを覚えています。そんな中でも人との関わりが楽しいと思えるようになったきっかけが、JB フェローズの担当になったことです。それまでは、園内のことにしか目を向けていなかった私ですが、JB になったことで兵庫ブロックにある他の園のこと、イエス団のことについて知る機会が増えていきました。また、そこからイエス団の仲間との人間関係が広がっていきました。

公開保育や瞳保育所へのお手伝い、ハンセン病研修などの場にたくさん参加させていただく中で、兵庫ブロックの方だけでなく、大阪、京都ブロックの方たちとの関わりも多くありました。兵庫ブロックには、保育園、幼稚園の先生方たちが主なので、共感、共有できる部分は多く安心を感じました。福祉や介護、地域との関わり、社会のできごとなどに深く関わっておられる大阪、京都ブロックの方たちのお話を聞いたり、仕事をされている姿にはすごく興味を持つと共に、色々と気づかされることばかりでした。JB の担当ではなくなった後でも交流会や研修などに参加させていただき、様々な方たちとお話をした経験は私の糧になったと思っています。そのような中で、異動の話を受けました。とても不安な気持ちもありましたが、他の場所での経験をしてみたい、様々な人と関わってみたいという思いを持ち異動をさせていただきました。それはJB のたくさんのつながりがあったからこそ決断できたと思っています。

2つ目の園に異動したのですが、そこでもJB で知っていた先生がいたことで安心した気持ちを覚えています。1つめの園とは地域性や子どもの人数、職員、保護者との人間関係など環境も大きく変わり、その中で私自身も環境の変化に戸惑い、大変なこともありましたが他の先生方からフォローをしていただいたことで何事にも突っ走りながら4年間を過ごすことができました。アットホームな雰囲気の中でゆったりとこのびのびと関わりながら一人ひとりに合わせた保育ができたことはとても勉強になりました。

そして、2度目の異動をし、現在二宮保育園で働いています。民間移管からの保育園ということでイエス団の様々な園から職員が集まり、1から保育を作り上げていくというところから始まりました。同じ法人とはいえ、一人ひとり違った考え方や保育観を持つ中で、1つにまとまっていく大変さもありますが、そんな考え方もあるのかと、発見の毎日です。今では園も3年目となり、少しずつですが保育の流れや形を作り出していく楽しさや面白さを感じています。

人との「つながり」が感じにくい世の中になっていますが、私はこのイエス団の中でつながった人との関係を大切にしていきたいと思っています。同じ場所にいても、いなくても、「きっとあの先生はこう思い、考えるだろうな」、「あの先生も頑張っているんだろうな」と思うだけで、私も頑張ることができず。今は研修などに参加したり、会える機会がなかなかないですが、いつかまたみなさんに会って、お話ができる日を楽しみにしています。

次回は、みどり野保育園さんにバトンをまわしたいと思います。よろしくお願いします。



京都ブロック くずは光の子保育園 おおもりいくみ 大森郁美さん

「共に寄り添い、支えつながる」

この度、ぶどうの木保育園からバトンを受け取りました。くずは光の子保育園の大森郁美です。保育士になって早、今年で39年目になります。来年は60歳なので定年を迎えます。長い保育者人生の中で社会福祉法人イエス団にお世話になって30年。終幕を降ろすのに自分を振り返り、リセットが出来る良い機会を与えて下さった事に感謝致します。

私は6年前から保育の現場を離れ「地域子育て支援拠点事業」に携わっております。保育園とは違って、家庭で子育てをしている親子が集う場所で、家庭保育の子どもと関わっています。開所当時は、どのように関わり支援していけば良いのかわからず、悩む日も多かったです。経験ある先輩方にご指導をいただきながら、手探りで進んでまいりました。日々重ねるごとに、保護者との信頼関係も出来始めました。そうすると、保護者から子どもの発達について、夫婦の事、今後の自分の生き方等の相談を受けるようになりました。

孤立が進む中、誰かに思いを聴いて欲しい、「いいね！すごいね！」と共感してもらい、背中を押してもらいたい思いがあるのだとわかってきました。ネット社会が進んで情報が溢れていますが、生声で自分だけに「大丈夫！それでいいよ。」と言ってもらいたい。「そうだね。みんな一緒に悩みをかかえているよ。」と言って欲しい、寄り添って話を聞いてもらいたい。そうすれば安心して前に進んで行ける。色々な事に向き合える事が出来る。「寄り添って、支えて。」そんな心の叫びに気づき、こんな思いを持って子育てを頑張っておられるのだ、答えを出す事は出来ないが、こちらが真剣に寄り添い、繋がっていれば思いは伝わる。と信じて接していくと、涙していた保護者が笑顔になって「ありがとうございました。」と言って帰って行かれます。その姿を見ると、小さな力だけど目を見て触れ合い、繋がれる事が人間にとっていかに大切であるかを知る事が出来ました。

思いもしなかったコロナ禍で、人のかかわりが制限されてしまい、より一層横のつながりが出来にくくなりました。緊急事態宣言により子育て支援拠点事業は閉室、子育て親子は平常の生活が180度変わり、外にも行けず、一日中子どもとの生活、気がついたら「誰とも会話をしていない」、「子どもとの生活に不安を感じる」、「早く開放して欲しい」等の声が聞こえて来ました。この状況の中で、私たちに出来る事は何かを考えました。まず自分がこの現状を冷静に受け止め、モチベーションを下げないようにする事。ネガティブにならない事。そして、この時こそ寄り添い、「そばにいるよ。いつでも待っているよ。私たちは繋がっているよ！」とブログからの発信を行いました。それを受けて保護者も反応して下さり、電話での相談が始まりました。傾聴するだけでも保護者は安心されて心が軽くなったと、喜んで明るくなれました。それを機に1組ずつ来園してもらい育児相談を行ったり、親子で楽しめる製作の提供等をしたりと、私たちに出来る支援を行って来ました。

やっと緊急事態宣言が解除されて開放が出来るようになると、たくさんの親子が集って来られました。なかには二人目を



出産されて「又来られるようになった。」と久々にお顔を見せてくれる親子もおられて嬉しくなりました。

知らない者同士が集い、そこから輪が広がりがついています。聖書ヨハネによる福音書 15 章 5 節「私はぶどうの木。あなた方はその枝である。」は好きな聖句です。この生きにくい時代、誰にでも淋しさや無力感を感じます。だからこそ、私たちは決して一人ではないこと、神さまという誰よりも強く、大きく優しい方といつも繋がっている事がどれほど力になることか。人と人との繋がりは生きていくうえで、なくてはならないものだと思えます。

今後もコロナ禍の中で思い悩む日々も多いですが、自分の力だけで解決しようと思わないで、私たちは繋がっているのだ。共に思いを共有して寄り添っていきましょう。と送り続けたいと思っています。

次回の「イエス団の輪」は、宇山光の子保育園にお願いしたいと思っています。よろしくお願いします。

J. B. フェローズ活動報告

四国ブロック

コロナ禍の今、集まる機会をもつのはまだ難しい状況であるため、昨年に引き続き、ZOOM でのオンライン会議を行いました。今年度の活動としては、毎年続けている『作品カレンダーの製作』を行うこととなりました。この活動は、四国ブロック各施設の子どもたちや利用者の方が次の年（今回は 2022 年用）のカレンダーを製作し、それぞれの施設にプレゼントするというものです。今までは、いただいたカレンダーが飾られた写真を共有する形だったのですが、今年度は、冊子として発行し、広く共有できるような取り組みをしようということになりました。この活動を通して、それぞれの施設とのつながりを感じられる機会がもてればと思います。また、コロナ禍の中での各施設における変化や悩み、困っていることなどについてそれぞれが話す時をもちました。業種や職種の違いをこえて、様々な角度、視点からの悩みや不安について知ることができました。共感しあえる部分や驚きと発見もあり、普段なかなか関わることでできない中で、貴重な時間となりました。まだまだ、集まれる機会をもつことはできていませんが、With コロナ時代の中で、JB フェローズとしてできることについて考え、模索しながら互いに協力、助け合っていきたいと思っています。

報告：四国ブロックリーダー 育愛館 藤田愛里加

兵庫ブロック

① ブロック交流会

昨年度に引き続き中止としました。交流会を開催できた時には、新たな職員との出会いや園紹介、懇親会を通して、より深く兵庫ブロックで関係を築いていきたいと考えます。

② 施設訪問研修

昨年度に引き続き中止としました。二宮保育園、のぞみ保育園が来年度 5、6 月に開催予定です。

③ 給食室研修

昨年度に引き続き中止としました。今回は神視保育園で行う予定です。

④ 東日本復興支援 T シャツ・ポロシャツ・パーカー・トレーナー申し込みについて

昨年度に販売していた色のみとしました。今年度から新たにロンT が加わりました。

⑤ 長島愛生園・豊島

それぞれ研修は中止ですが、引き続き情報交換をしていきます。

⑥ 冊子づくり

コロナ禍での保育も 2 年目に入り、行事等や保育をどのように工夫をしているかを共有しました。

今年度も残念ながら交流会は中止になりましたが、昨年度から始めた冊子作りによって、直接の情報交換は出来なくても各施設でどのような保育をしているのかと様々なことを知ることができました。新型コロナウイルスによって、制限されることもまだまだあります。ですがマイナス面だけでなく、コロナ禍だからこそ子どもたちと経験出来ることがあると施設で共有できたことも、互いに安心することにつながっています。

報告：兵庫ブロックリーダー のぞみ保育園 篠田有記

京都ブロック

2021 年度の JB フェローズ京都ブロックの活動は、①「発達障がいに関する意見交換会」②「給食に関する意見交換会」③「豊島研修」「長島愛生園研修」④「京都ブロック大集会」の 4 つの活動を予定していましたがコロナ対策の為、中止しました。代わりに今まで研修会をさせて頂いた豊島の物産・みかん・ジャム等を「オンラインバザー」で行い京都ブロックの方々・保護者や卒園児保護者に購入して頂きました。

① 「発達障がいに関する意見交換会」

意見交換会は、次年度も引き続き各施設から事例を持ち寄り、情報を共有し、より良い関わりを考える場にしていこうと考えています。

② 「給食に関する意見交換会」

年 3 回各施設の調理職員が集まり、献立作り・レシピ・提供する器・食育の評価等の情報交換や意見交換を計画していました。

③ 「豊島研修」「長島愛生園研修」

「豊島研修」は継続して行ってきた企画です。豊島の方々、各ブロックの方々の御協力を頂きながら続けてきました。「みんなのレモン」は 6 年目になりました。今後も繋がりを大切に今、出来る事考え継続していきたいと思っています。

「長島愛生園研修」では、資料館の見学、当事者の方の体験談、当事者の方々と困るでの懇親会を通じてハンセン病問題が理解出来る貴重な機会となっていました。これから継続して研修等を行って行きたいと考えています。

④ 「JBF 京都交流会」

「イエス団 100 周年記念大会」でより多くのイエス団職員が集う大会で「MS2009」の実現や思いの共有が出来ました。コロナによって交流会が行えず間が空いてしまいましたが、その思いを継続し、形にしていけるように京都ブロックでは「JBF 京都交流会」を行って行きたいと思っています。

2021 年度もコロナの影響で JB フェローズの活動は行っていません。ただコロナで気付かされた事があります。昨日まで聞いたこともない目にも止まらない小さなウイルス、「コロナ」が広まり、あっという間に世界中が驚く騒ぎになりました。これを逆に JB フェローズの活動を行っていく中で、普段集まらないイエス団職員が集まりいろんな職員がいる事、そして補い合い、協力し合い、成長できる…そんなつながりを大切にしたい。そんな思いから生まれた JBF の思いは、まだまだ道半ばかもしれませんが、今までのやり方でダメなら発想を変え、行動を変えれば人に思いが伝わりより良い社会になるのではと、コロナ禍でのコロナ対策や沢山の方々や協力していく中で感じました。これから今まで、研修に関わって協力して下さった方々、地域の方々、参加して下さった各施設の職員との間で研修を超えた協力関係や人間関係をより大切に、どんな時もやめる事より続ける方法を考え活動していきたいと思っています。

報告：京都ブロックリーダー 宇山光の子保育園 荒木健

大阪ブロック

2021 年度の大阪ブロックの活動

例年行われていた施設見学や給食室の交流会は、コロナ渦のため今年度も見送ることとしたが、各園の情報交換やつながりを継続するために、職員通信を年2回発行する。また、復興支援のための取り組みについても、今年度は交流が持てないことから行っていないが、交流が出来るようになれば再開したいと考えております。

① 大阪職員通信第22号発行(10月)

<内容>

- ・各施設取り組み紹介
コロナ渦での保育や行事の取り組み方について
- ・キリスト教Q&A

② 大阪職員通信第23号発行予定(1月中旬予定)

<内容>

- ・各施設取り組み紹介
- ・キリスト教Q&A

報告：大阪ブロックリーダー 天使保育園 小関百合



編集後記

新型コロナウイルス感染症が中国武漢で初確認されたとされる日から2年が経過しました。日本国内では173万人が感染し、1万8千人を超える方々がその尊い命を失いました。世界全体では2億7千万人が感染し535万人が亡くなっています。今もなおデルタ、オミクロンと変異を繰り返しながら感染を広げ続けています。この2年間で時短営業や雇止め、失業による貧困。医療逼迫により他の疾病患者が医療を受けられず命を失う事例もありました。胸を痛めたのは、自宅療養中の妊婦が、入院調整は行われたものの受け入れ先が見つからず、そのまま自宅で出産し、赤ちゃんが亡くなったという痛ましい出来事。またコロナ遺児となり、教育の機会を失ったり、日々の生活さえ困窮している事例も深刻です。おうち時間が増えた事による離婚問題、虐待ケースも多くなりました。いわれのない誹謗中傷や差別などなど。私たちは日々、子どもや利用者、職員や自身の健康を守りながら、そうしたケースにもアンテナを張り、心を向けて、寄り添っていかなければなりません。112年前のクリスマス、病身の賀川豊彦が一人スラムに献身し様々な困難に立ち向かい、惨状に天を仰いだことを覚えます。私たちも仲間とともに力を合わせ、知恵を絞り、支え合いながらイエスに倣ってこの困難な時代を乗り越えていきましょう。イエス団報25号をクリスマスに発行できましたこと、神さまの導きとイエス団に連なる皆様のご協力に感謝致します。皆様の上に主の守りと豊かな祝福がありますように。メリークリスマス！

イエス団報編集委員会

表紙写真の解説



キャプション (写真上から①～⑤の順)

- ① 再会…利用者とドライブ中、偶然に利用者(夫)と妻が道端で再会。夫婦の姿をみていた同乗者みんなが涙ぐみました。

【豊島ナオミ荘】

- ② アオギリ平和集会…原爆で焦土となった広島でアオギリが芽を出したことが、広島市民の希望となり、平和を愛する心を継承していくために、広島市がアオギリを育て、被爆アオギリ2世として、全国に配布してくださっています。向島中央公園に2018年に植樹し、毎年、平和を祈念する集会を行っています。

【愛隣館】

- ③ 園舎建て替えのため、枚方市芸術文化センター「関西医大 大ホール」を借りて、第3回 宇山光の子保育園『ページェント』を行いました。
- ④ また、今年初めて各ご家庭に「献金袋」をお配りし、献金の依頼を行いました。

【宇山光の子保育園】

- ⑤ 6歳になると、自然と肩を組む場面を見ることが多くなります。

【杉の子保育園】

表紙では M.S2009 の取り組みを象徴する写真を募って掲載させていただいております。素敵な写真を提供くださった皆様ありがとうございました。